

2026年度 スポーツ科学部 FD 活動方針・活動計画

2026年度スポーツ科学部では、全学FD方針に基づき、以下の取り組みを実施する。

1. 大学4年間を通した基幹科目の充実

【目的】

- (1) 「スポーツキャリア演習 I~IV」の充実を図る。
- (2) 「スポーツ専門演習 I~IV」の充実を図る。
- (3) Sports Coaching Competency Test (SCCOT)により学修成果を定量化（可視化）する。

【実施内容】

- (1) 前年度の振り返りを踏まえた授業内容の改変（AIの適切な活用の提案、1年次のボランティア活動の導入）。主任教員を中心とした授業担当教員+SAによる運営+期末の振り返りによるブラッシュアップを行う。
- (2) 学部教員数と学生数を踏まえた授業内容の検討。前年度のグッド・プラクティスを踏まえ、教育内容の最適化を図る。
- (3) コーチングに関する資質・能力を定量的に把握する SCCOT（Sports Coaching Competency Test）の受検と結果フィードバックを継続実施する（1・3年次に受検）。

【実施内容の詳細】

- ・将来構想検討委員会（毎月1回）
学部全体のカリキュラムの検討と共に、基幹科目の内容と運営方法の検討。
- ・教務委員会（毎月1回）
将来構想検討委員会と連携し、学部全体のカリキュラムおよび基幹科目の内容と運営方法の検討。
- ・スポーツキャリア演習
 - ①1年次のボランティア活動の導入（2年次では既に導入済み）。
 - ②AIの適切な活用に関する、共通教材を用いた提案。
 - ③半期授業の開始時と終了時に、教員+SAでのミーティング。
 - ④各クラスでの個別面談+その内容をUNIPA「学生プロフィール」へ登録・教員間で共有。
- ・スポーツ専門演習
 - ①3年次の取り組み：ゼミ合同の卒業研究中間発表会を開催し、研究計画要旨を作成。学生同士での発表内容の評価・振り返りの実施（今年度追加事項）。
 - ②4年次の取り組み：学生主体の実行委員会を設置し、各ゼミの代表者による卒業研究発表会を開催。また、全学生の卒業研究抄録集を作成し、複数ゼミでカテゴリー化し、

カテゴリーごとの研究発表会を開催（全学生が発表の場を持ち、他ゼミ教員・学生からの質疑を受ける）。

2. 教員の教育・研究能力・学部運営能力等の向上

【目的】

- (1) スポーツ科学部教員勉強会を実施し「教員相互の研究理解、研究意欲の向上、研究費獲得法の理解、授業実施方法の共有、大学・CSC との連携、学部の現状や課題の共有、等」を図る。
- (2) 学部教員間での相互授業観察・評価と即時フィードバックを行い、各教員が教育改善に向けた取り組みを試行する。
- (3) 学部の特殊性を踏まえた委員会構成、学生の声の収集等による、学部運営の充実を図る。
- (4) 実技実習科目担当教員（非常勤含む）への実技実習科目教育目標の周知を徹底する。
- (5) 新任教員への研修を実施する。

【実施内容】

- (1) 隔週 30 分程度の勉強会を企画・運営する（2023 年度からの継続）。
- (2) 年度ごとに観察対象者を替え、他者のグッド・プラクティスおよび指摘から教育改善を図る（次年度、次学期に向けた改善策の提案）。全ての相互授業観察結果を学部教員間で共有し、教育改善を推進する。学部教育に関して、非常勤講師に対するヒアリングを実施する。
- (3) 学部独自の委員会組織化と年間活動報告書の作成、スポーツ科学部独自のアンケートを実施する。授業での困りごと、要改善点等に関して、教職員と学生（特任助手・ISS 事務室職員・SA を含む）を対象にしたヒアリングを行う。
- (4) 実技実習担当教員（非常勤含む）に対し、「体育・スポーツ学分野における教育の質保証—参照基準と教育関連調査結果—」に基づいた実技実習の教育目標の周知と、教育目標に基づいた授業展開を依頼する。
- (5) 本学部 Vision に基づく柱の 1 つである実技実習（野外活動）に参加し、野外教育（環境教育・冒険教育）の指導を行うとともに、学部の特色・学生の傾向を把握する。野外活動を通じて学部学生および教員との交流を図り、円滑な教育活動・学部運営を促進する。

以上